

# 畜産試験場だより

## 酪農試験場

◆4月1日付で、当場にも大きな人事移動がありました。当場建設当時から8年間もの長い間、勤務され、大きな業績を残されました、上原業務主任を県畜産課酪農係長に、田中庶務主任を酪農大学校総務課長に、又当場研究の主軸となっておりました。飼料作物研究室主任三秋技師を酪農大学校の飼料作物研究室長に送り、その後任として、津山農林事務所から、清須技師、山本主事、酪農試験場ひるせん分場より、岸川技師それぞれ就任いたしました。

なお新年度より、課制がしかれ、業務課、庶務課がおかれることになりました。

◆さて、最近の酪農振興の状況は、酪農戸数と、乳牛頭数の増加率をみますと、前者の伸長率は比較的にぶく、後者は可成りな伸びをみているようです。これは、経営拡大の方向に向いているものと一応考えられ、喜ばしい傾向と思えます。

しかしながら、このような方向に進むためには、資金や、管理労力の省力化や、飼料の高位生産等高度な技術が、うまく、とり入れられなければ、切角とり組んだ酪農も脱落してゆきます。

そこで、当場におきましても、常にこのようなことについて関心をよせ、それぞれの試験項目を選び、各研究室に分担して、調査研究をしておりますが、本年度の方針は、農林省の委託試験のほかは、地方に即した直ちに農家の方々に応用して頂くことのできるような試験研究を重点に実施してゆく方針であり、酪農経営上の具体的なことがらが、より有利に展開してゆくことを希い、系統機関を通じての普及に努力するつもりであります。

次に本年度実施予定の試験項目の中から主なものをあげてみますと、

飼養研究室としては、

### 1、乳牛の飼養標準設定に関する研究

これは、県内における、飼育の適正を期するために行なうもので、泌乳牛の飼養試験と地域的に慣用されている主な飼料の化学的組成を調査してゆきます。

### 2、基礎飼料の利用に関する研究

同時期に生産される基礎飼料の、牛の嗜好性、採食量を調べ、又混播採牧草のみ給与して、その採食量、泌乳量、及び生理状態について調べ、生産費節減の基本である基礎資料の利用限度を研究します。

この1、2の研究項目は、経営上において、将来基本的な、いわゆる基礎飼料は、乾草とエンシレーヂとするならば、これに時季的に生産される、青刈飼料を適宜加え、なお若干の濃厚飼料を添加することによって、今後の多頭化に対する飼料給与体系の最も効率的な、方法を究明することとなりますので、飼養研究室としては、重点的に実施する予定です。

繁殖衛生研究室は、

### 1、改良繁殖に関する研究

夏期における種雄牛の能力低下の対策と、優良種雄牛の効率的利用をはかるために、凍結による精液の長期保存と、その利用による受胎試験を行ないます。

又乳牛改良上種雄牛の遺伝的性能を早期に知るために、系統的に娘牛の体型、資質、能力について調査を実施しますが、この調査にあたっては、県の出先機関、特に家畜保健衛生所は勿論、酪農関係団体、及び農家の方々の積極的な協力をお願いいたします。

### 2、低受胎牛に関する調査研究

酪農経営上の基本的要因である受胎率、特に低受胎牛について、原因を究明するとともに、家畜保健衛生所との連携、協力によって治療試験も併せて行ないます。

飼料作物研究室

ここでは、何れも上級機関委託試験の継続試験であります。経営研究室担当のパイロットファームの試験と緊密な連携を保って行ないます。

1、飼料作物耕種基準設定に関する試験 2、牧草類優良系統栽培採種調査 3、飼料作物の高位生産に関する研究 4、ラヂノクローバーの混播草地に対する草生維持に関する試験等を、主として行ないます。

次にこの室が担当しております中家畜のうち、ランドレース種豚が、4月上旬3腹分娩して、

## 岡山畜産便り1962.05

只今哺乳育成中です。今後この環境における育成、耐暑性、飼養管理の問題について、研究していきたいと思います。

### 経営研究室

#### 1、酪農経営の分析と、改善点の抽出に関する研究

県内の酪農型態における経営の実態を抽出的に調査して、現状の分析と、改善点を抽出し、酪農技術の基本的資料を把握するために、先ず津山市を中心として、4戸の酪農家の経営分析と併せて指導を行ないます。

#### 2、デイリーパイロット、ファームの経営に関する研究

これは、前年度よりの継続事業であります。自立経営酪農家の規模を想定して、デイリーパイロット、ファームを設定し、その実務を行なって、新しい技術の適応価値を検討し、その過程を経て、自立経営酪農家の技術体型の確立と、酪農経営の標準化をはかります。

以上各室の主な調査研究項目について申し述べましたが、関係機関の絶大なる協力をお願いします。

◆なお今回、川上郡成羽町に当場の分室的な指導施設が、酪農経営改善指導所として誕生しました。これは酪農経営を実際に行ない、展示するとともに、農家の指導にあたることとなります。これ又関係方面の積極的な御意見と協力をお願いする次第です。

又今年度の酪農講習生14名は4月5日入所し、郷愁もようやく薄らぎ、仲よく、しかも元気に勉学に励んでおります。勉学に、実習に、強く鞭打つことが、時にありますが、将来各地方のよき経営者として、或は指導者として、来春巣立ってゆくことを、楽しみに、期待しております。

以上簡単に酪農試験場の近況をお知らせします。